

伊藤 ゆきひろの ちょっとタイム

<No.105号> 2019年12月1日発行



ごあいさつ

遅れ馳せだった街路樹の紅葉が始まり、落ち葉の絨毯に足下が包まれるよう…

先月、38年ぶりにローマ・フランシスコ教皇が来日。長崎と広島を訪れ「核兵器のない世界に向けた行動を」と力強く発信しました。唯一の戦争被爆国である

日本でのスピーチには、我が国こそ核廃絶の必要性を国際世論に訴え「核なき世界」の実現に道筋を付ける責務を求められるようにも感じました。

一方、前後してG20外相会議が名古屋で開催され、今回は自由貿易が主要テーマとなりましたが、パリ協定で採択された気候変動への対策について、先進国の早急且つ積極的な議論・展開を期待しています。

さて、先月末 各企業の9月中間決算の結果が出揃い、自動車産業など中部の製造業の苦境が鮮明となりました。中国経済の減速や円高、米中貿易摩擦の激化等が主要因とのこと。海外での事業規模が広がればリスクも拡大します。今後も変化に柔軟な対応ができる体質を築き上げていくことが肝要です。

市議会は、4日から定例議会を開会。安全で安心、持続可能なまちづくりに議論を深めて参ります。



刈谷市議会議員

刈谷市一里山町金山100番地 (トヨタ車体労働組合内)	
Tel	0566-36-3870
Fax	0566-36-6272
E-mail	itou@bwcom.or.jp
HPアドレス	http://y110.jimdo.com



歳時記

- 12月 4日 (水) 人権週間 (→10日)
- 7日 (土) 大雪
- 13日 (金) 正月事始め・煤払い
- 22日 (日) 冬至
- 25日 (水) クリスマス
- 31日 (火) 大晦日・大祓い

時代は平成から令和へ、一つの大きな節目となった今年も残り僅かとなり、感慨深く思い返される事も多いでしょう。ケータイのスケジュール機能に、一日数行の日記を入力するだけで曖昧な記憶を補い、思わず重宝することも。

11月のフットワーク

市民クラブ会派 行政視察『全国都市問題会議』出席報告

開催日	11月7日(木)・8日(金)
会場	鹿児島県霧島市(国分体育館)
テーマ	「防災とコミュニティ」について



【参加者】黒川 智明 中嶋 祥元 鈴木 浩二
佐原 充恭 深谷 英貴 伊藤 幸弘

【目的】近年の自然災害は、多様化・大型化し各地で大規模被害が多発している。一方で、災害時必要とされる地域コミュニティの希薄化が進んでいるのが現状。その課題に対し、有識者の所見や他市の対応事例等を聞き学び、今後の議員活動の参考にすることを目的に視察する。

- 1日目 1) 基調講演 「鹿児島の歴史から学ぶ防災の知恵」 志学館大学教授 原口 泉氏
- 2) 主報告 「霧島市の防災の取り組み」 霧島市長 中重 真一
- 3) 一般報告

- ① 「地域から地域防災力強化への答えを出すために」 尚絅学院大学郡長 田中 重好氏
- ② 「平成30年7月豪雨災害における広島市の対応について」 広島市長 松井 一寛氏
- ③ 「火山災害と防災」 防災科学技術研究所火山研究推進センター長 中田 節也氏

■ 2日目

4) パネルディスカッション

テーマ「防災とコミュニティ」 コーディネータ 追手門学院大学教授 田中 正人氏
パネリスト

- ① 「コミュニティ・レジリエンス醸成のカギをさぐって」 専修大学教授 大矢 根淳氏
- ② 「目標と限界を共有する戦略的な連携計画」 香川大学教授 磯打 千雅子氏
- ③ 「地域コミュニティの強化を目指して」 霧島市国分野口地区公民館長 持留 憲治氏
- ④ 「安全・安心なまち三島を目指して」 三島市長 豊岡 武士氏
- ⑤ 「防災活動を通じた地域との連携」 和歌山県南海市長 神出政巳氏



【所感】鹿児島県の桜島では日常的に噴火を繰り返しており、今回の会議開催中にも噴火し、黒い噴煙が上がったのを見た。被災した自治体の危機感が良く伝わり「地域のコミュニティが育たなければ防災も育たない」ことが良く理解できた視察となった。

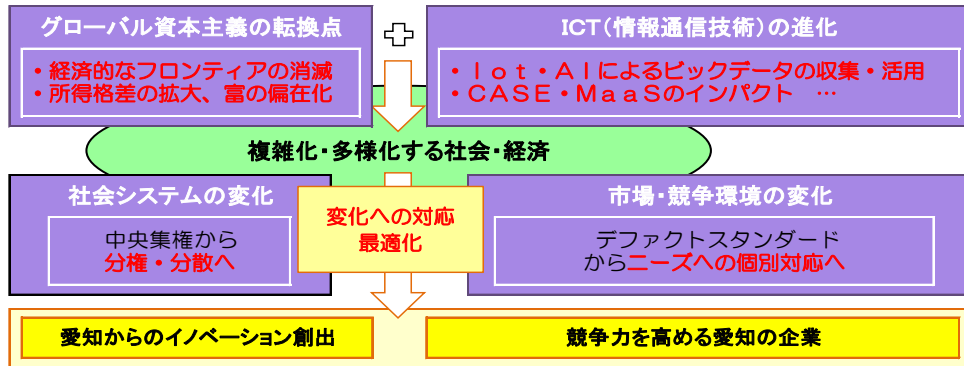
被災時は、現場優先という意識が重要であり、首長は、一般的な対応に捕われず「例外」を怖れず、自らが現場最優先でやろうという姿勢や復興目標を示し進めることが肝要。またコミュニティづくりには自治会加入率を上げる取り組みは入り口であり、自治会に入りたくなる施策を積極的に行わなければ、「防災は育たない」と強く感じた。今後はその観点で議員の役割を果たしていきたい。



11月のフットワーク

ユタクラブ議員協議会 研修会報告

開催日	11月4日(月)名古屋キャッスルプラザ
講師	愛知県知事 大村秀章氏
テーマ	将来に向けての先端産業の取り組み



“愛知型成長モデル”：モノづくり産業の集積拡充

・集積が集積を呼び、イノベーションを創出 ・新たな雇用、消費・投資の喚起

最先端の技術・サービスの積極的な導入	新たなビジネスの創出	新たな産業の育成
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の活用 ・実証実験・社会実装によるイノベーションの創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなアイデアや最先端技術を持つスタートアップの育成・誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空宇宙、ロボット… ・付加価値の高い観光産業の育成

全ト労連政策推進議員 勉強会報告

『第4次産業革命』～Society5.0～について



Society 5.0とは、サイバー空間とフィジカル(現実)空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会をいう。



伊藤ゆきひろの ちょこっと情報 !!

刈谷 良いトコ ♪



目の覚めるような紅葉を 水面に映して、お伽の国の時間が止まったかのようです。小春日和の碧空が、切ないほどに美しい…さて、ここはどこでしょう？



11/1発行の<No.104>の答えは、小垣江町の清水牧場、屋下がり 牛舎を出て寛ぐ牛達でした。のどかな田園地帯に囲まれた牧場は多くの学校の見学や体験者を受入れています。

“カトラリーの歴史”への招待☆ (Chapter 4)

動乱が落ち着き 国家が機能し始めると、生活にも余裕が生じて、ようやく普及するようになったカトラリーに、工夫や改良が加えられて行きました。フォークの原型は農耕具を真似 二股に分かれたもので、食事には使い難いため、やがて先の短い4本刃になり、フォークで切って口に運ぶという現在の形は、17世紀に確立されたスタイルですが、銀のカトラリーは大変高価だったことから、食事の際 招待客は自分専用のカトラリーを持参していました。ナイフ・フォーク・スプーンをセット使用でできるようになったのは19世紀、その頃から各家庭にも、銀のカトラリーが常備されるようになりました。美と富の象徴とされた銀器ですが、放置すると空気中の硫黄分と反応して変色するため、常に手入れが必要なることから、忠実な家臣の存在と行き届いた膳を想像させると同時に、豊かな経済力を誇示することが出来たと言われます。振り返ると、欧州の洗練されたテーブルマナーは思いの外歴史が浅く、それに比べて旧石器器時代から出土する日本のカトラリー、その文化の根幹を為すものは、自身ではなく他者を優先し 思い遣る気持ちの表れとも考えられます。

12月の行事予定

- 12月 3日(火) 刈谷知立環境組合定例議会
- 4日(水) ~20日(金) 刈谷市議会12月定例会
- 7日(土) 連合愛知政策推進議員懇談会
- 16日(月) 自動車総連愛知県支部代表者のつどい
- 18日(水) 衣浦東部広域連合議会運営委員会
- 26日(木) 衣浦東部広域連合議会臨時会

“まじめに
コツコツ、即行動”
頑張ります!!

